

編集後記

○5月11日農林省が公表した農産物の需要と生産の長期見通しによりますと、昭和46年度においては、鶏卵の需給はほぼ均衡するが、肉類は多少不足気味、牛乳は果実とともにかなり不足するものとみられています。その他の農作物についてみても麦や甘藷の所得弾性値のマイナスなど選択的拡大方向をとるべきことがはっきりしているようです。そしてそのためには農業構造改革を行ない、水田および畑作の全般にわたる生産性の向上が必要とされ、また酪農の振興のためには経営規模の拡大と飼料基盤の整備などによる近代化と協業の助長等が重要課題とされています。一応常識的にもこれが必要なことはわかるわけですが、実際に実施するとなると難問題ばかりで、総合的な振興対策と長い努力と苦勞の積み重ねがなくてはとても達成できないこととあります。ともあれ本号では畜産の長期見通しだけを掲載することにしました。

○このほど第40国会では農業協同組合法と農地法の一部改正が行なわれ、いよいよ少しずつでも、規模の拡大や、協業化へと農業を新しい方向へ進める基盤が整備されつつあります。現在県下には百を越す協業経営体があり、その大部分が畜産の協業です。畜産を協業体あるいは協業組織として伸ばすことは、国の施策に沿うことでもあるし、現状からは一応正しい方向でしょうが、それは多額の投資を必要とするためやはり長期的に先を見通したもので、特に将来の農業構造に対応できるよう、十分な研究の上に立ったものでなければならないと思われま

○今月は流通飼料のうちで皆んなが関心をもちながらあまり内容の知られていない専管ふすまを手元の資料から解説し、また発生時期を迎えたロイコトゾン病について畜産課衛生係から解説してもらいました。時報としては豚肉価格安定、豚の伝染性胃腸炎、ランドレースの県の増殖計画など大分片寄りましたが、豚の最近の話題を取上げました。7月号には畜産関係資金融資についての解説を予定しています。畜産物市況は大阪経済事務所の都合で中断していましたが次号からまた続けます。発行が大変遅れご迷惑をおかけしていますが、逐次はやめるよう努力いたします。

○会費未納の方は早く御払い込みくださいますよう重ねてお願いします。何卒御協力ください。また本誌内容その他について御希望、御意見がありましたら係までお便りをお寄せください。